

ボストンでの生活は折り返しを迎えました。研修4日目、大きな進歩が見られる一日でした。語学学校の授業前後に留学生と会話をする姿が増えてきました。昨日までは廊下に留学生がいても、あまり交流をしている様子は見られませんでした。しかし、本日は休み時間だけに関わらず、お昼休みも楽しそうにお喋りする姿が見てとれました。午後のアクティビティが迫っていたので、残念ながらランチを一緒にすることは出来なかったようですが、「金曜日のランチは一緒に行こう！」と誘うことも出来たようです。

午前の授業を終え、本日訪れるのはハーバード大学（HVD）です。短いランチを済ませ（集合場所の地下鉄駅前でサンドイッチを頬張る生徒さんが多くいました）、暖かな日差しの中、全員で地下鉄に乗って HVD を目指しました。キャンパスを案内してくださったのは、中国で大学を卒業され、その後スタンフォード大学で修士号を取り、現在は HVD の大学院で古典中国文学を研究されている趙氏です。ジョン・ハーバード像の前からツアーが始まりました。学生寮に取り囲まれた HVD ヤードを抜けると、次に訪れたのが Science Center です。ここには、1937年に HVD 大学院生が開発したアメリカ発のプログラム式コンピューターが展示してあります。今とはまるで違う巨大なコンピューターに驚きを隠せません。南北戦争の犠牲者を弔う為に建立された Memorial Hall（1年生が使う食堂は映画ハリー・ポッターで出てくる食堂のようなデザインです）、研究室が階段状に配置されている Druker Design Gallery、ゴッホやピカソ、ルノワールなどの有名な絵画を見ることが出来る Art Museum などを見学しました。Museum 内で、趙氏から HVD ならではの大学内部のこと、勉強のことを伺いました。聞きたいこと、話したいことは沢山ありますが、残念ながらツアーは終了の時間を迎えました。世界有数の蔵書量を誇るワイドナー記念図書館で、趙氏とはお別れです。名残惜しい気持ちをヤードに残し、一同は語学学校に帰りました。

語学学校では、授業が終わった留学生が集まり、クリスマスの飾り付けをしていました。大きなツリーにオーナメントを下げたり、リボンやガーランドで壁を華やかにデコレーションしています。もちろん高女生も参加します。明日登校する時には、語学学校はクリスマス一色となっていることでしょう。

デコレーションを始める前、明日のスケジュールを確認する短いミーティングを行いました。その場で、高2の生徒さんから、全体に向けて提案がありました。「今までの自分達の行動は、本当に満足できるものなのだろうか。毎日充実して過ごしている人もいるかもしれないし、そうでない人もいるかもしれない。うまくいっている人は、どうやっているか教えて欲しいし、うまくいっていない人はそれを参考にして、残り少ない研修を後悔しないようにしよう。明日、MIT から帰ってきたら、希望者が集まって話し合う場をつくりたいから、ぜひ来て欲しい。」こんな投げかけでした。少しずつ積極的に行動が出来るようになってきたのですが、それは果たして日本にいた頃に思い描いていた姿でしょうか。ただ単に留学生と楽しいお喋りが出来ること、日本から持って来たお土産を配って歩くことが、この研修で達成したいことだったのでしょうか。有志の生徒さんからの問いかけは、自分達の行動を今一度見直すきっかけになるかもしれません。以上、4日目の報告とさせていただきます

有名なジョン・ハーバード像と趙氏



巨大なコンピューター！



階段状の研究室



ゴシック建築の Memorial Hall



Museum での質疑応答



ワイドナー図書館



ツアーのお礼を伝えます



聡明で可愛らしい趙氏



クリスマスデコレーティング中



日本のお菓子をお試し中

